



昔の「藤沢」をたどる道 歴史好きなら歩いてみたい 意外なスポットの数々

藤沢市には歴史散歩ができるスポットがたくさんある。
桓武天皇の時代から、明治初期まで…
昔に想いを馳せながら、
のんびりと散策してみるのもおもしろい。
新しい発見があるかも!?

藤沢を通る歴史の「道」



遊浄光寺からスタート!

キュン!
22

① 江の島道

旧藤沢宿(現在の遊浄光寺^{しょうじょうこうじ}周辺)から江の島までの約1里(約4km)を結ぶ江の島道。江戸時代、大山参詣とともに人気だった江の島弁財天参詣道として賑わった。藤沢橋の交差点の近くにスタート地点を示す「江の島弁財天道標」がある。ここから道標をたどり、昔の佇まいを感じながら、江の島まで歩いてみよう。



遊行通りの道標



辻堂四ツ谷にある起点の道標と鳥居

キュン!
23

② 大山道

江戸時代、関東各地から相模国大山にある大山阿夫利神社への参詣者が通った古道。大山からの帰路には江の島や鎌倉を観光するなど、大山参詣は一種のレジャーだった。藤沢には南北に2本、藤沢市辻堂四ツ谷から相模川の田村の渡しを利用する「田村通大山道」と、横浜市戸塚区不動坂から藤沢市長後、用田を通る「柏尾通大山道」がある。「田村通大山道」の起点には鳥居や道標が置かれており、毎年7月1日に街道開き法要が行われ、護摩が焚かれる。



風情を感じる店蔵造りの家や土蔵

キュン!
24

③ 東海道 藤沢宿

江戸を起点に京都まで伸びる東海道五十三次の6番目の宿場。遊行寺(清浄光寺)の門前の町で、江戸の初め頃、現在の藤沢公民館と藤沢市民病院のあたりには徳川将軍の「藤沢御殿」があり、徳川家康、秀忠、家光の3代で30回近く利用されていたという。幕末には70軒以上の旅籠があった。
※2016年4月にふじさわ宿交流館がオープン(予定)



藤沢の変わった地名の由来

① 用田(ようだ)

相模国一ノ宮である寒川神社の「御用田」があった地域。大山道と中原街道が交差する用田の辻には、大山不動明王坐像が見守る大山道標がある。大山参詣の通り道として、江戸時代、旅籠や茶屋で賑わっていたようである。

② 葛原(くずはら)

桓武天皇第三皇子葛原親王^{かつらはらしんのう}に由来するとされる地名。親王の御所があったので葛原と呼ばれた。子孫が親王を奉祀して崇めていたなどの説がある。また、葛が生い茂る原だったとも。

③ 瀬郷(おそごう)

昔、沼地があり、瀬が多く生息していたといわれ、瀬の郷から村名となったと言われている。

④ 御所見(ごしょみ)

御所見の名は、葛原親王が散歩の際に御所を眺めたという葛原の塚「御所見塚」に由来する。

⑤ 打戻(うちもどり)

宇都母知神社は御所見地区では最も古い神社で、この神社が打戻という地名の元になったと考えられている。また、うつもちの「うつ」は「囲まれたところ」を指し、「もち」は「小さな盆地」を意味し、小出川流域の盆地を中心とした土地がこのように呼ばれたという説もある。

⑥ 大庭(おおば)

平安時代に鎌倉権五郎景政が未開地を開発、御厨として伊勢神宮に寄進し、大庭御厨と呼ばれていた。ここから徐々に人口が増え、南に宿場町も形成された。

⑦ 長後(ちょうご)

鎌倉幕府の有力御家人・渋谷庄司重国が治めていた全国の渋谷姓の発祥の地(東京・渋谷もこの一族に由来)といわれる。引地川と下和田神社のそばの境川を斜めに結ぶ細長い郷であり、古くは「長郷」といわれていた。大山街道と滝山街道を結ぶ交通の要衝・宿場町として栄えた。鎌倉・室町時代に建てられた寺社が多く残る。

⑧ 羽鳥(はとり)

大昔に住んでいた「機織り」をする一族ハトリベから、また鶴が飛来していたことから名づけられたという説がある。羽鳥は大山参詣の人の往来で賑わっていたが、参詣客は村の子どもたちにお金を与えるなど、教育上好ましくない状況だった。それを憂えた村名主の三鶯八郎右衛門は、教育向上のため、明治5年に東京の学者小笠原東陽を招き、読書院を開いた。その後、耕余塾と改名される。耕余塾の評判は高く、神奈川の教育の中心ともなり、かつての総理大臣吉田茂もこの塾で学んだという。

⑨ 大鋸(だいぎり)

室町時代中頃から、遊行寺の門前付近に大鋸引という職人たちが多く住んでいたことからこの名がついた。戦国時代には、小田原北条氏直属の職人衆として城造りや修理に重要な役割を果たし、関東各地にも出向していたようだ。大鋸の遊行寺門前は、かつて広小路と呼ばれていた(広小路とは、江戸時代、火災で多くの人家が焼失するのを避けるために設定された火除地のこと)。

キュン! TOPIC

物語をたどって藤沢をめぐるのもおすすめです



遊行寺にまつわる小栗判官と照手姫の物語は歌舞伎や浄瑠璃で有名です。妻・照手姫の一門に殺された小栗が閻魔大王の計らいで蘇り、姫と再会するという話ですが、実は、殺された小栗判官が葬られた場所と、蘇って地獄から這い上がってきたと伝えられる場所(土震い塚)が、西俣野の花応院近くにあり、また花応院には小栗判官の縁起絵も保管されており、毎年1月と8月の16日に行われる閻魔大王の縁日には、縁起絵が公開され絵解きが行われています。
※藤沢ゆかりの物語には、ほかに「源義経首洗い井戸」「天女と五頭龍」「西行もどり松」などがあります

藤沢市役所 生涯学習部 郷土歴史課 細井 守